

【チャールズ・ディケンズ生誕200周年記念復刻出版】

Frederic G. Kitton

# Charles Dickens by Pen and Pencil

ヴィクトリア朝の文豪  
チャールズ・ディケンズの  
実像に“文”と“絵”から迫る  
豪華出版物を復刻!



son of an object have  
view of rendering them in  
delineations of Dickens  
absence of this feeling  
favoured exception to Di  
a man ceases to be abas  
nearest approach to so  
those portraits wherein  
sufficiently pronounced  
subject of gross exagger

# ディケンズの世界

文字と絵による秘話と追想

全2巻

ISBN 978-4-86340-120-4

B4判・732 pp., ill.

定価(本体84,000円+税)



Athena Press

# キトンの『ペンとペンシル』を推す

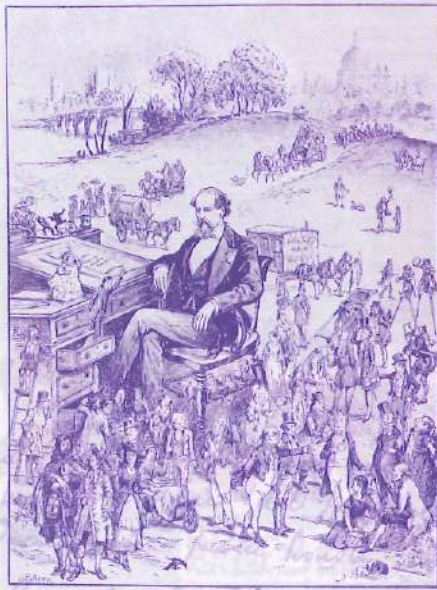
佐々木 徹 ● 京都大学教授 / ディケンズ・フェロウシップ日本支部支部長

フレデリック・ジョージ・キトン(1856-1904)は煙草屋の息子としてブリッジに生まれ、製図工の徒弟奉公をした後、画才を買われて「グラフィック」や「イラストレイテッド・ロンドン・ニュース」など有名な雑誌の挿絵を担当するようになる。幼い頃からディケンズの作品に強く惹かれた彼は、ハプロ・ブラウンやジョン・リーチといったディケンズに縁の深い挿絵画家についての書物を著した後、書誌『ディケンジアナ』(1886)に始まり、「ペンとペンシルによるチャールズ・ディケンズ』(1889-90)、『ディケンズとその挿絵画家たち』(1898)など、ディケンズに関する多くの著書を出版した。

キトンはディケンズ愛好家の国際団体ディケンズ・フェロウシップの創設(1902)に関わった重要なメンバーの一人で、初代の副会長を務めた。極めて精力的な活動家で、ポーツマスにあるディケンズの生家が売りに出た時(1903)、ポーツマス市当局に掛け合ってこれを市が購入し公共財産とするよう説得したし、また同年には、ディケンズが新婚時代の住居とし、そこで『ピックウィック・ペーパーズ』や『オリヴァー・ツイスト』などを執筆した、ロンドンのダウティー・ストリート48番地に記念の銘板が付設されるよう運動した。今日その銘板のついた家はチャールズ・ディケンズ博物館として、多くの観光客や研究者の訪れる聖地(?)となっている。キトンが所蔵していたディケンズ関係の貴重なコレクションもここに収められている。五十ならずしてこの世を去ったキトンを悼む文章の中で、熱心なディケンズファンであったアーサー・ウォー(小説家イヴリン・ウォーの父親)は、キトンが失ったことでわれわれはディケンズ研究における最高権威を失ったと言ひ、彼ほどディケンズのことを「知りつくしていた人はいない」と記している。長生きしていれば、キトンは当然フェロウシップの会長になっていたであろう。

『ペンとペンシルによるチャールズ・ディケンズ』はそのキトンの多くの著作の中でも、もっとも価値あるものである。キトンの筆になる伝記的記述はもとより、100を超えるイラストは非常に貴重な資料である。また、本書にはディケンズを知っていた人々による回想がたくさん収録されており、それらの多くはここでしか読めない。

『ペンとペンシル』は中身だけではなく、古書としての価値もきわめて高い。中古市場にもめったに出でこない稀覯本で(ちなみに、日本国内の大学図書館でこの本を所蔵しているところはない)、たまに出てきてもすごい値がついている。今ためにネットの大手サイトAddALLを見てみると、分冊で出た初版が6500ドルで1点出品されているのみである。実を言うと、僕も前から本書を欲しいと思ひながら、手が出ないまま今日に至っている。そういう次第で、このたびのリプリントはまことに有難い。嬉しい企画を大いに歓迎するとともに、この良書を多くの人に薦めたい。



Dickens 1838

Dickens 1861



*... what is your best - your in best - a glass? ... special occasion. I don't know what. It may have been in the ... of the ...*

## 初期ディケンズ入魂のヴィジュアル資料

原英一 ● 東京女子大学教授

多くの文学研究者と同じように、私も本が好きである。この場合、もちろん、それは内容もさることながら、本そのもの、つまりモノあるいはアイテムとしての本のことを意味している。だからといって、本のコレクター、ビブリオマニアになるのは難しい。何しろ、ほしいと思う本ほど高価なのだから。はるか昔、ディケンズにのめり込み始めた頃、古書店のカatalogにナンサッチ版ディケンズ全集が載っていた。価格はちょうど100万円。とうてい買えるはずもなく、ただ眺めるだけだった。ところが、それから4年ほど経って、別な古書カatalogを見たら、同じ全集が160万円という価格になっているではないか。「しまった、あのとき借金してでも買ってあげばよかった」とくやしい思いをした。同じ頃、どこかの書店の古書展示会で、*Dombey and Son*の月刊分冊完全揃いというのを見たこともあったが、これも価格はたしか50万円を越えていた。

本当のビブリオマニアなら相当無理をしてもこれらを買っていたことだろうが、結局買わなかったのは、本というアイテムに対する愛着という執着がさほどのものではなかった証拠だ。ところが、その私にとっての唯一の例外が、F. G. Kitton, *Charles Dickens by Pen and Pencil*である。実物を見たことはなかったのだが、いろいろところで言及され、賞賛されているので、その存在は昔から知っていた。六、七年前のこと、たまたまネットでイギリスの古書店のカatalogをブラウズしていたら、これに出逢ったのである。しかも、ディケンズの月刊分冊のオリジナルなどに比べれば、決して手の届かない価格ではない。思いきって買うことにした。

手元に届いた二巻からなる大型本を開いて、ページを繰っていくうちに、だんだんと手が震えてきた。この本のすばらしさがじわじわと全身にしみわたってきたからである。そこには、これまで様々な伝記や研究書でおなじみだったディケンズやその関係者の肖像画、写真さらにはポスターやカリカチュアまでが、無数に掲載されている。とくにディケンズの肖像画や写真は大量にあり、その多くは見事に彫版されていて、印刷状態がきわめてよい。ディケンズに関するさまざまなエピソードを連ねたテキストと大小さまざま、変化に富んだ図版からなるこの本は、ディケンズ・ファンにとっては、まさに至宝といべきものであることを実感した。

キトンは *The Graphic*などで活躍した彫版師であり、多くの作品を残している。同時に彼はディケンズの大ファンであった。国際的なディケンズ・ファン・クラブともいうべきディケンズ・フェロウシップは、日本支部もあるが、1902年にキトンらによって設立されたものである。*Charles Dickens by Pen and Pencil*が尋常ならざる丁寧さと凝り方で作り上げられ、ディケンズに関するこの上なく貴重なヴィジュアル資料となったのは、最初のディケンズ入魂の一人としての熱情と愛情のなせる業であった。

この本は、もともとは1889年から90年にかけて、本体13分冊と補遺5分冊で刊行されたものである。私が所有するのは天金・草装で、二巻本にまとめられている。十分に満足できる製本なのだが、一つだけ残念なのは、オリジナルの分冊カバーが一部しか綴じ込まれていないことだ。この種の出版物は、ディケンズの小説の月刊分冊と同じく、所有者が好みの形で製本することを前提としているため、分冊カバーはごく質素なものである。しかし、オリジナルのカバーは、ファンにとっては欠かせないアイテムであるのはもちろんのこと、資料として価値があることは疑いない。この度のアティーナ・プレスでの復刻版では、分冊のカバーもすべて含まれているとのことであり、ディケンズ研究で基本的かつ重要な資料となることだろう。

Dickens  
1830

Dickens  
1844

Dickens  
1870



# CHARLES DICKENS BY PEN AND PENCIL

Including Anecdotes and Reminiscences Collected from His Friends and Contemporaries

by Frederic G. Kitton (1889-91)\*

全2巻セット・定価(本体84,000円+税) ISBN 978-4-86340-120-4・B4判・732 pp., ill.

\*刊行年は原書による。(ただし本書の購入者に後から提供された、製本用のタイトルページには1890-1892と記載されている。)



## 本書について

チャールズ・ディケンズ生誕200年を記念して、アティーナ・プレスでは「多量の図版、大いに参考になる情報が詰まった(ODNB)」、フレデリック・キトンの贅をこらした刊行物を復刻します。

ロンドンのSabin and Dexter社から3年の時間をかけて、本体13号(1889-1890)、補遺5号(1890)、特別追加画集(1891)が刊行されたこの本には、ディケンズの人生や業績を示す図版が数百点収められて非常に価値が高いものです。

その図版は、ディケンズの肖像画の他、彼の家族や友人の肖像、住まい、愛用品、また署名、手紙、小説の草稿、挿絵の下書きなど

で、Maclise, Cruikshank, Frith, Doyle, Egg, Landseer, 'Phiz', Stone, Leech, Meadows, Thackeray, Pailthorpe, 'Spy'といった著名な芸術家たちが手掛けています。

文章については、ディケンズの生涯、追想等で構成され、Charles Mackay, Mary Boyle, W. P. Frith, Mark Twain, Frank Finlay, Percy Fitzgerald, Edmund Yates, Joseph Grego, Luke Fildes, Frederick Leighton, Bret Harteといった人びとが思い出を語っています。

当時知られていた限りのディケンズの肖像画のリスト、索引も付されています。

## 編者キトン (Kitton) について



この本の編集に携わった Frederic George Kitton (1856-1904)は1902年設立当初の Dickens Fellowship (DFS)副会長を務めた人物です。若いころは雑誌 *The Graphic* の彫版工として働き、のちには *Illustrated London News* はじめとする各種

の雑誌や本に、木版や銅版を提供していましたが、その中でディケンズへの関心を深めて彼の生涯と作品の研究にのめりこむようになり、それを多くの著作に結実させました。



死後、彼のディケンズ関連の蔵書はDFSが入手、現在ロンドンの Doughty Streetにあるディケンズ・ミュージアム図書館の根幹となっています。

【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】